

法人第11期  
2021.7 - 2022.6

# 桜ライン311 活動報告書


Sakura Line 311  
ANNUAL REPORT 2021



桜 Sakura Line 311\*

認定特定非営利活動法人 桜ライン311

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字大隅93-1  
高田大隅つどいの丘商店街12号  
0192-47-3399 (TEL/FAX)  
info@sakura-line311.org  
<https://www.sakura-line311.org>

後援：  岩手県陸前高田市



「私たちは悔しいんです。」という言葉のもと始めた桜ライン311の事業も二〇二二年七月一日をもちまして法人第十二期目となりました。東日本大震災から十一年が経ちましたが、今もこうして事業を継続できていることに心から感謝申し上げます。事業の継続の難しさを実感することも多々ありますが、皆さまの心のこもったご支援やご声援に励まされスタッフ一同、日々活動ができています。改めて御礼を申し上げます。

東日本大震災に限らず、日本を襲う津波は繰り返されること知られています。また津波だけに限らずあらゆる災害はくり返し起きるものです。私たちは、東日本大震災の教訓を後世に伝えることが、次に起こりうる災害時に人的被害をどれだけ軽減できるかということに直結していると考えています。

「災害で生まれる悲しみを二度と繰り返さない未来を創る」

このビジョンを達成するために、陸前高田市に避難の目印となる桜の並木を作り、その意味を伝承していくこと。そしてその過程に震災を経験していない人にも関わっていただき、被災経験のない人の「他人事」(ひとごと)を「自分事」に変えていただくこと。この二つが、十一年の年月が過ぎようとも設立時と何ら変わらない私たちの願いと覚悟です。

任意団体時、初めての植樹会を二〇一一年十一月六日に実施し、桜を植えました。そこから毎年のように植樹会を開催し、全国の皆さまにご参加をいただきました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響をうけ開催を中止した時期もありましたが、累計として植樹の許可をいただいた地権者さまは三八〇名を超え、植樹事業にご参加いただいた方は七一九六名、そして植えた桜の苗木は一九七八本となりました。目標としている一万七〇〇〇本までの道のりはまだまだ先ではありますが、この過程に多くの皆さまの共感とお力添えがあることが、私たちの原動力となっています。

猛暑日や真夏日も多く例年にも増して厳しい夏の訪れとなりました。桜も弱っている様子も見受けられましたがこまめに手入れを行い、枯らさないように大切に管理しています。必ず教訓を伝える桜となるよう育てていきます。そして苗を大きく育てると同時に、皆さまの心の中の減災への意識も育てていきたいと思っています。

なお二〇一二年から勤めている副代表理事の伊勢友紀ですが、二〇二二年七月から出産のため産前・産後休暇をいただくこととなりました。伊勢が復帰するのは、来年の秋ごろの見込みです。復帰の際には、皆さまにも温かく迎えていただけましたら幸いです。

社会状況が目まぐるしく変わる時代ですが、私たちが大切にしていることは変わりません。その時々になややかに対応しながら事業を推進してまいります。

第十二期目も引き続きご指導とご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

認定特定非営利活動法人桜ライン311

代表理事 岡本翔馬



撮影日：2022年4月11日 陸前高田市高田町浄土寺  
植樹日：2011年11月6日 カワヅザクラ3本



私たちは、悔しいんです。

二〇一一年三月十一日、東日本大震災が発生し、一時間以内に東北各地を津波が襲いました。

陸前高田市でも多くの人が時間を止めました。

その後、「実は、今回と同規模の津波が三陸沿岸を飲みこんだ記録や痕跡がありました。」との、ニュースが流れていました。

十メートルを超える津波の可能性が、震災前から声高に叫ばれていれば！

震災前の防潮堤には、限界があることを知らされていれば！

津波によって奪われた命は、もっと少なくて済んだのではないか？

その思いが、今も頭を巡ります。

私たちは、悔しいんです。

その思いを同じくする者たちが集まり、「桜ライン311」を立ち上げました。

次の時代が、この悔しさを繰り返すことのないように、

今回の津波の到達点を桜の木でつなぎ、後世に伝えたいとおもいます。

現在、瓦礫撤去が進み、津波の到達点がほやけ始めている今、一日も早く、

やりたいんです。

でも、私たちだけでは、限界があります。

皆さんの力を貸してください。お願いします。

(二〇二一年十月)

撮影日：2022年4月14日 陸前高田市気仙町二日市

植樹日：2020年12月2日 エドヒガンザクラ4本（岩手県立住田高等学校 学校植樹会にて）

2021年3月13日 エドヒガンザクラ5本（一般参加者 2021年春の植樹会にて）

2021年10月29日 エドヒガンザクラ1本（一関市立桜町中学校 学校植樹会にて）



# 事業報告 植樹事業

桜ライン311の活動の二本柱の一つ、植樹事業。  
東日本大震災の津波の最高到達点に桜を植えて、後世に津波の恐ろしさや避難の大切さを伝える事業です。

二〇一一年十一月六日に第一回目の植樹を始めてから二〇二二年六月末までに、三八二箇所一九七八本の桜を全国の皆さまに植えていただきました。

当初の予定では二〇二二年春に二〇〇〇本越えのご報告ができるはずでしたが、新型コロナウイルス感染症拡大により春の植樹会の参加者を県内在住者限定と規模を縮小し開催したため、二〇〇〇本の報告ができませんでした。この第十一期は、二〇二二年秋に十四箇所九十本、二〇二二年春には三箇所三十一本、合計で十七箇所一二一本の桜を植えました。この本数には一般参加の方の他に、桜ラインの意味を後世に伝えてもらうために児童生徒による学校植樹会の数が含まれています。春と秋あわせて三箇所三十本が、児童生徒の手によるものです。

学校植樹会の際には、事前に講話の時間をいただき「なぜここに桜が植えられるのか」「ここで何があったのか」「子どもたちに記憶して、伝えてほしいこと」「もしもの場合に自分と周りの人を助ける人になって欲しいこと」などを伝えていきます。児童生徒たちの反応は様々ですが、いつかは全員が理解してくれると信じ学校植樹会を継続してまいります。

そして当団体の活動は、桜を植えて終わりではありません。

毎年、春の植樹会終了から秋の植樹会が始まる間に、全ての桜の状態を確認する「全箇所確認」を行っています。この全箇所確認は、環境整備（草刈り・つる草除去・竹除去）をして、ようやく桜の観察やメンテナンスを行います。桜の成長を写真におさめ、支柱がしっかりと地面に刺さっているか、紐に緩みがないか、成長による鹿避けネットや紐の幹への食い込みがないか、鹿の食害や害虫被害などのチェック項目を確認し、剪定や忌避剤による鹿対策、薬剤散布による害虫対策を行います。「開花の有無」「生育状況」「倒木被害」なども管理番号ごとに記録しています。また、暑かった第十期の夏の反省を生かし、造成地に植樹した桜の根元の土の入れ替えや、ゴザなどを使い根元を覆い太陽や地熱から根を守る作業を行ったことで、造成地における活着率を上げることができました。

夏の桜のお手入れ参加者募集に至っては、期間中に岩手県独自の警戒宣言の発表、さらに緊急事態宣言の発表により、全国からの募集を取りやめることになりました。この三年間、新型コロナウイルスの感染拡大の波の繰り返しにより、団体もさまざまな影響を受けています。植樹会や桜のお手入れにお申込みをいただきながらご参加いただけなかった皆さまには、改めて心よりお詫び申し上げます。

当団体の活動は桜を植えることが目的ではなく、次の大津波の時にすみやかに避難するための目印の桜だということを知ってもらおうとです。だからこそ、植えて終わりではないのです。私たちが感じた悔しさを繰り返さないために、地域の方、協力していただける方とともに歩みを進めてまいります。



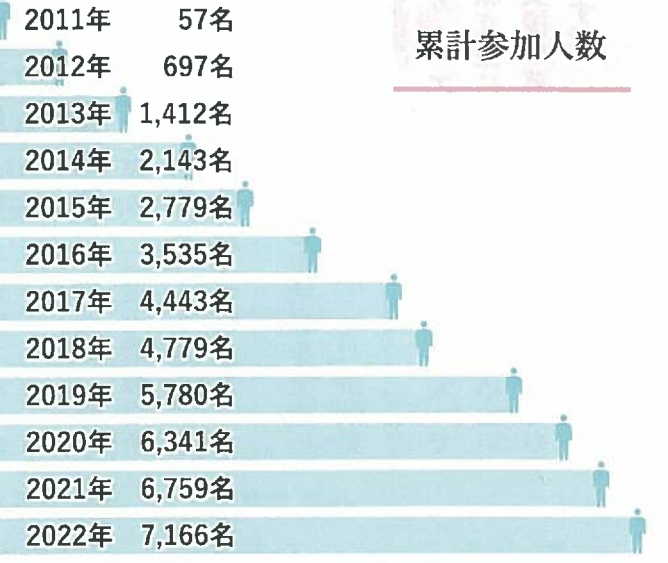
01) 奥の防潮堤より高い植樹地 02) 力強く支柱を打ち込む姿に迷いはない 03) 全箇所確認。桜の成長を感じ、紐を直す  
04) 植樹会に向け、土をまとめて購入 05) 地元から初参加。ボクの桜大きくなあれ 06) 事前準備。現地へ苗木と資材を設置

## 学校植樹

2021年10月29日	一関市立桜町中学校	11月26日	陸前高田市立小友小学校
11月5日	花巻市立西南中学校	11月29日	陸前高田市立高田小学校
11月18日	郁文館夢学園 郁文館中学校	11月30日	陸前高田市立米崎小学校
11月19日	陸前高田市立広田小学校	2022年3月15日	陸前高田市立気仙小学校

## 植樹会

2021年11月13日～12月11日	秋の植樹会 (30組134名)
12月5日	理事植樹会
2022年3月1日～31日	春の植樹会 (6組42名) ※岩手県内在住者に限定
4月3日	理事植樹会



※2022年4月末時点の植樹実績及び参加実績になります。





# 事業報告 普及啓発事業

「災害で生まれる悲しみを二度と繰り返さない未来を創る」というビジョンを基に、「被災経験のない人の「他人事」（ひとごと）を「自分事」に変える」というミッションを桜ライン311では定めています。陸前高田市にお越しになる事が難しい方にもお住まいの地域で防災減災を考えるきっかけとして、また当団体の活動を知っていただく機会として講演を中心とした普及啓発事業も活動の大きな一つの柱です。

第十一期も新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた社会状況でしたが、Zoomなどのオンラインでの講演実施が普及し、第十期を超える回数のご依頼がありました。また、教育機関からのご依頼がとて多い一年でした。合計三十二回、二〇二一年の皆さまにお話させていただき、集計を開始してから累計聴講者数は二万三八二六名となりました。講演内容は東日本大震災や防災減災に関するイベント、NPOの運用や寄附の募集に関わるものなど様々です。

こうした講演の機会をいただくことも、またそれにご参加くださることも当団体の活動への「参加」と「支援」の一つです。ご依頼をいただきました皆さまに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

大雨、地震、火山、大雪など、日本はとても自然災害の多い地理学的特徴を持った国だということを正しく認識していただき、それぞれの災害に対しての意識や備えを育てていくことが、人的被害を軽減することにつながると考えています。

「線状降水帯」という気象用語を聞いたこともある方も多いのでは

ないでしょうか？二〇一四年に発生した広島土砂災害以降一般的に知られるようになり、関東・東北豪雨（二〇一五年九月）、九州北部豪雨（二〇一七年七月）、西日本豪雨（二〇一八年六月〜七月）など各地で観測され、すべての現場で人的にも物的にも大きな被害を発生させました。

これらの被害を受け、二〇二二年六月から広域な地域を対象に気象庁から予測情報（気象情報）の提供が開始となり、二〇二四年には都道府県単位、二〇二九年には市町村単位と、範囲をより狭くし予測情報を提供する方向で進められています。

台風や線状降水帯のように災害が予測された時には、雨が強くなる前に安全な場所へ移動する必要があります。そのため講演では、防災マップやハザードマップを確認し、ご家族で避難する場所を話し合うようお勧めしています。

東日本大震災では、津波が襲う前に避難場所に移動完了したのに、お金や着替え、薬や位牌を取りに自宅に戻り、二度と避難場所に戻ってこなかった人が大勢いました。皆さまが、そうならないようにしていただくことも、震災犠牲者の供養になると思っています。

最後になりますが、緊急人道支援を目的とした募金活動を実施いたしました。二〇二二年七月「熱海市伊豆山土石流災害」では静岡県熱海市へ、同年八月「武雄市水害災害」では佐賀県武雄市へ、二〇二二年一月「フンガ・トンガ・ハアパイ火山の大規模噴火」では日本赤十字社を通し現地の医療支援にお預かりした募金を送金いたしました。当団体の緊急人道支援の募金活動に関わったすべての皆さまに改めて御礼を申し上げます。



01) 義援金募金箱を設置 02) 名古屋市、中学生の祭典「チュー祭」講演の様子 03) 講演の中で、桜の植樹地を説明  
04) 西南中学校 植樹会の様子 05) 高田小学校 植樹会の様子 06) 植樹の前に黙禱。米崎小学校 6年生

## 義援金募集

熱海市伊豆山土石流災害義援金募集	
発 生	2021年7月3日
実施期間	2021年7月5日～8月17日
募金総額	168,900円
送 金 先	静岡県熱海市

武雄市水害義援金募集	
発 生	2021年8月11日
実施期間	2021年8月18日～9月21日
募金総額	23,881円
送 金 先	佐賀県武雄市

フンガ・トンガ=フンガ・ハアパイ火山の大噴火被害義援金募集	
発 生	2022年1月15日
実施期間	2022年1月20日～2月28日
募金総額	118,644円
送 金 先	日本赤十字社「トンガ大洋州噴火津波」

## 募金活動にご協力頂いた店舗一覧

伊東文具店	川の駅 産直よこた	ジャズ喫茶 h. イマジン
おかし工房 木村屋	キャピタルホテル1000 株式会社	旬味旬彩 鮎まつ田
菓子司 東海堂	熊谷珈琲店	食堂カフェ仙華園×クレープ仙華園
Cafe Yuki Grandpa (大船渡市)	コワーキングスペース ヤドカリ	スナックみそら
カフェレストラン クローバー	SAKE's BAR 酒場 THE 陸丸	中華食堂 熊谷
	産直はまなす 陸前高田	やぶ屋

※五十音順





# 事業報告 政策提言事業

政策提言事業は桜並木を防災減災だけでなく、まちづくりの一部として活用してもらえよう提言することを目的とした事業です。

桜を育てていくなかで徐々に文化となり、桜と街と人が支えあうような未来を目指しています。加えて、当団体の活動の中で培った植樹・市民参加・震災伝承といった部分の経験を活かし、有識者会議等の場でのまちづくりに関する提言を行っています。

二〇一四年から高田松原津波復興祈念公園設置に関わる有識者委員会への参加を中心に、継続的にまちづくり部分での利活用の提言を行ってまいりました。二〇一九年には祈念公園の中核施設となる東日本大震災津波伝承館及び道の駅高田松原がオープンし、二〇二一年十二月に全面供用開始となりました。二〇二二年六月には高田松原津波復興祈念公園事業完了式にご招待をいただき出席いたしました。公園の基本理念は「東日本大震災津波の犠牲者を追悼・鎮魂し、震災の事実と教訓を継承するとともに、まちづくりと一体となった地域の賑わいの再生に資すること」とあるように継承や賑わいといった点で、多くの皆さまに利用され愛される公園を目指しています。有識者委員会は解散となりましたが、市民協働グループとして、現在も月一回ペースで会議が行われています。今後もグループ代表者会議に参加し、利活用を含めた議論と企画に関わる所存です。そこでの各種企画にも微力ながら貢献をできたらと思っております。来年度の活動報告書でご報告できる様に、しっかりと努めてまいります。

当団体が植えている桜は、市が行うまちづくりにおいて景観や植栽

の分野に扱われますが、今後のまちづくりの中でどう活かしていくかは、市や市民の皆さま次第のところもあり長い時間が必要です。

第十一期も、陸前高田市と工事関係者との連携のもと植樹許可をいただき、市有地及び県有地への植樹本数は通算で二五七本となりました。また、市有地や民有地にクラウドファンディングでご支援いただきました桜ラインを伝える看板(サイン)と樹名板も、設置を二通り終えることができました。市有地及び県有地の新規植樹地についてはこれからも増えていきますので、改めて看板(サイン)や樹名板設置を検討したいと思っています。この桜ラインが、最終的には地域住民と全国から訪れる皆さまにとっての共通の財産として深く愛されるよう、この街に関わるあらゆる方が携われるような事業展開を整えていきたいと思えます。

陸前高田市内で活動する団体として、また、同市民としてまちづくりを自分事として考えながら、市や県などに桜を活かすまちづくりの提言を続けてまいります。

## ※高田松原津波復興祈念公園

整備面積は一三〇ha。(東京ドームで換算すると約二十八個分)敷地内には市が整備している五つの震災遺構(タピック45(旧道の駅高田松原)・市立気仙中学校・奇跡の一本松・陸前高田ユースホステル・下宿定住促進住宅)のほか、東日本大震災津波伝承館や道の駅高田松原があります。



01) 看板(サイン)のある風景 02) 東日本大震災津波伝承館周辺を横上空から撮影 画像提供: 岩手県  
 03) 広田湾上空から撮影 画像提供: 岩手県 04) 震災遺構 道の駅高田松原(タピック45) 05) 震災遺構 奇跡の一本松  
 06) 高田松原津波復興祈念公園看板 07) 震災遺構 陸前高田市立気仙中学校 08) 浄土寺の桜を見上げる市民(桜巡り)





# 事務局報告

第十一期では、二種の助成金を活用させていただき、広報チームと植樹チームの強化を図りました。

一つは広報力の強化を目的として「東日本大震災現地NPO応援基金」を第十期から継続して活用させていただきました。実施内容としては、研修等を通じた広報スタッフの育成プログラムの実施、リーフレット等各種紙媒体の作成を行いました。これまで使用してきた団体紹介リーフレット、パネルは内容の更新・デザインの変更を行いました。このほか、遺贈寄附リーフレット、桜ライン見学可能マップを新たに作成しました。桜ライン見学可能マップは、市内宿泊施設や観光施設に設置させていただいており、多くの方にお手に取っていただいています。これらの制作物は完成の報告も兼ね、昨年第十期の活動報告書とともに同封し、支援者の皆さまや地権者の皆さま、関わりがあった皆さまに発送いたしました。陸前高田市への観光をきっかけとして桜ラインを知っていただき、防災減災を考える機会へとつながっていただければと願っています。

二つ目は植樹事業について、第十期から継続して「タケダ・いのち」とくらし再生プログラム」を活用させていただき、ユニバーサル就労（一般就労が困難な方を多様な働き方で支援する取り組み）の運用を実施してきました。結果として、一名をパートタイムスタッフとして雇用することとなりました。春から夏にかけては植樹地の草刈作業、秋から冬にかけては植樹予定地の整地作業と、外作業を行う貴重な戦力として活躍してくれています。今後も管理すべき樹木の本数

は増えていくため、多様な手法を取り入れながら桜並木の保全に努めたいと考えています。

新型コロナウイルスの影響を大きく受けた社会情勢の中、時代に合わせた寄附の形を模索し、キャンペーンを開催してくださった企業さまも多く、広報チームとしても団体ホームページをはじめフェイスブックやツイッター及びインスタグラムなどでも、キャンペーンの周知に注力いたしました。

なかでも有株式会社SORA（ソラ）さまは、これまで来店されたお客さまに桜の刻印で手作りチャームを作っていた方法をとっておりましたが、コロナ禍の新しい試みとしてツイッターのリツイート機能を活用したキャンペーンを実施していただきました。リツイートにつき十円が寄附となる仕組みを整えていただき、誰もが気軽に参加できるこのキャンペーンは当団体にも多くの反響をいただきました。

東日本大震災の教訓を、災害を体験していない世代へと伝える手段としてSNSを活用した、こうしたキャンペーンを通し、当団体の活動の周知にもご尽力いただきました多くの企業さま、またキャンペーンへご参加いただいた皆さま、商品のご購入をいただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。

これからも伝承のために何が必要かを考え、ご支援いただく皆さまの思いも組みとった活動ができるよう邁進してまいります。





# 年間活動実績

2021年7月1日～2022年6月30日

2021  
7

- 講演 一関市立桜町中学校 復興学習
- 講演 飯田市立飯田東中学校 復興学習 オンライン開催
- 活動 株式会社ONE COMPATH「桜ライン311プロジェクト応援マップ」更新
- 活動 一関市立桜町中学校 復興学習 現地視察
- 講演 花巻市立西南中学校 復興学習
- 活動 エネラポ株式会社 電気で寄附するエネルギーファンディング運用開始 ※現在新規受付停止中

8

- 講演 一般社団法人おらが大槌夢広場共同主催 夏休み高校生限定イベント <見て、聞いて、考える> 陸前高田と大槌を結ぶ伝承スタディーツアー
- 活動 夏の桜のお手入れ 受け入れ終了
- 活動 佐賀県武雄市水害義援金募集 開始
- 活動 株式会社バリューブックス「チャリボン寄付総額6億円突破キャンペーン」開始
- 活動 熱海市伊豆山土石流義援金募集 送金
- 活動 株式会社バリューブックス「チャリボン寄付総額6億円突破キャンペーン」終了

9

- 講演 郁文館夢学園 郁文館高等学校PBLツアー オンライン開催

10

- 活動 佐賀県武雄市水害義援金募集 送金
- 講演 盛岡白百合学園小学校 復興学習 オンライン開催
- 講演 特定非営利活動法人教育支援協会東海主催 中学生の祭典「チュー祭」
- 講演 盛岡白百合学園小学校 現地視察
- 植樹 一関市立桜町中学校 学校植樹会

11

- 活動 株式会社ONE COMPATH「桜ライン311プロジェクト応援マップ」リニューアル
- 植樹 花巻市立西南中学校 学校植樹会
- 講演 特定非営利活動法人NPOサポートセンター主催「10代と20代のためのNPOキャンパス(Nキャン)」登壇
- 講演 名古屋市防災危機管理局主催 名古屋市民交流団 防災交流
- 講演 陸前高田市立小友小学校 復興学習
- 講演 陸前高田市立小友小学校 復興学習
- 講演 陸前高田市立米崎小学校 復興学習
- 講演 株式会社みちのりトラベル東北主催 道絆プロジェクト2021
- 植樹 陸前高田市立高田小学校 学校植樹会
- 植樹 陸前高田市立米崎小学校 学校植樹会

12

- 講演 岩手県立住田高等学校 地域創造学「気仙地域を学ぶ」
- 講演 一般社団法人マルゴト陸前高田主催 国際基督教大学大学院 オンライン開催
- 植樹 理事植樹会
- 講演 株式会社みちのりトラベル東北主催 盛岡公務員法律専門学校 復興学習
- 活動 株式会社バリューブックス「チャリボン with ONE COIN」キャンペーン 開始
- 活動 株式会社KOLテクノロジーズ「Kifu Movement」運用開始
- 講演 日本ファンドレイジング協会東北チャプター主催 JFRA東北チャプター5周年記念フォーラム



- 植樹 秋の植樹会 終了
- 活動 株式会社バリューブックス「チャリボン with ONE COIN」キャンペーン 終了
- 活動 ユニリーバ・ジャパン株式会社「サクラドリーム」販売開始
- 講演 福島市市民活動サポートセンター主催「右腕・パートナーの作り方～優れたリーダーには信頼できる人物が近くにいる～」オンライン開催

- 活動 令和3年度「新しい東北」復興・創生の星頭彰 受賞
- 活動 フンガ・トンガ=フンガ・ハアパイ火山の大噴火被害義援金募集 開始
- 講演 株式会社みちのりトラベル東北主催 住友商事「事業経営者養成塾」

- 活動 株式会社東急百貨店 東日本大震災復興チャリティー「咲かせよう。桜ライン。」販売開始
- 講演 岩手わかすフェス実行委員会主催 岩手わかすフェス2022

- 植樹 春の植樹会 開始
- 活動 有限会社ソラ「桜並木をつくるチャリティキャンペーン」開始
- 活動 ヤフー株式会社×LINE株式会社 共同主催「3.11これからも、できること」開始
- 活動 フンガ・トンガ=フンガ・ハアパイ火山の大噴火被害義援金募集 送金
- 講演 成蹊大学復興支援プロジェクト オンライン開催
- 講演 盛岡工業クラブ主催 第125回会員懇談会・講演会
- 活動 株式会社バリューブックス「チャリボン 本で寄付してみよう」キャンペーン 開始

- 活動 日清丸紅飼料株式会社「ハーブ豚×桜ライン311 東北に桜を」販売開始
- 活動 有限会社ソラ「桜並木をつくるチャリティキャンペーン」終了
- 活動 ヤフー株式会社×LINE株式会社 共同主催「3.11これからも、できること」終了

- 植樹 陸前高田市立気仙小学校 学校植樹会
- 活動 株式会社バリューブックス「チャリボン 本で寄付してみよう」キャンペーン 終了
- 活動 株式会社麺食 喜多方ラーメン坂内食堂「東北復興祭」開催
- 活動 株式会社ミチノク 桜ライン311仕様オリジナルラッピング自動販売機2号機設置(北上駅東口都市開発株式会社)
- 活動 株式会社麺食 喜多方ラーメン坂内食堂「通販でも東北復興祭」販売開始
- 活動 株式会社麺食 喜多方ラーメン坂内食堂「通販でも東北復興祭」販売終了
- 植樹 春の植樹会 終了

- 植樹 理事植樹会
- 活動 株式会社ミチノク 桜ライン311仕様オリジナルラッピング自動販売機3号機設置(キャピタルホテル1000株式会社)
- 講演 京都市立深草中学校 チャリボン応援講演

- 活動 株式会社コメ兵 地域還元型買取イベント「KAITORI GO」開始
- 活動 株式会社コメ兵 地域還元型買取イベント「KAITORI GO」終了
- 講演 郁文館夢学園 郁文館高等学校PBLツアー

- 講演 東京世田谷ライオンズクラブ主催 ライオンズ会員オリエンテーション・大交流会 オンライン開催
- 講演 岩手大学 地域おこし論
- 講演 陸前高田市立高田小学校 草刈りボランティア
- 講演 島崎株式会社 社内向け講演会
- 講演 花巻市立南城中学校 復興学習



12

2022  
1

2

3

4

5

6

雑誌・その他

web

- 2021年 6月12日 公益財団法人日本デザイン振興会 東京ミッドタウン・デザインハブ第91回企画～7月 5日 展「東日本大震災とグッドデザイン賞 復興と新しい生活のためのデザイン」
- 11月20日 東海新報社 三陸パネル展「けせん」の詩」
- 11月26日 名古屋市役所 東日本大震災10年 名古屋市被災地支援記録誌=陸前高田市への丸ごと支援と交流の歩み～
- 2022年 2月22日 株式会社ミチノク 会社概要資料
- 3月 7日 東海新報社 陸前高田市広報折込 陸前高田市の復興記録誌
- 4月23日 名古屋市防災センター 陸前高田の防災にまつわる展示コーナー設置

- 2021年 10月18日 東晶貿易株式会社
- 10月18日 エネラポ株式会社
- 11月 5日 GeoNews
- 11月 6日 株式会社ミチノク
- 11月12日 econawa
- 2022年 3月12日 キフシル
- 3月14日 特定非営利活動法人日本NPOセンター NPOCROSS
- 4月 1日 一般社団法人陸前高田市観光物産協会
- 4月26日 株式会社NTTドコモ
- 6月18日 IBC岩手放送

ラジオ

- 2022年 3月 6日 IBC岩手放送
- 4月15日 横浜エフエム放送
- 4月30日 株式会社ベイエフエム
- 5月11日 NHK 国際放送局
- 6月 6日 さくらFM株式会社
- 6月13日 さくらFM株式会社
- 6月18日 IBC岩手放送

web (YouTube)

- 2021年 7月20日 株式会社薬王堂
- 12月27日 株式会社薬王堂
- 2022年 3月 9日 日本テレビ

新聞

- |                     |                   |             |             |
|---------------------|-------------------|-------------|-------------|
| 2021年 8月29日 信濃毎日新聞社 | 12月 3日 東海新報社      | 3月 6日 岩手日報社 | 3月17日 岩手日報社 |
| 9月21日 岩手日報社         | 2022年 1月 1日 岩手日報社 | 3月 8日 中日新聞社 | 3月31日 中日新聞社 |
| 11月 5日 東海新報社        | 1月 4日 毎日新聞社       | 3月 8日 徳島新聞社 | 4月 6日 朝日新聞社 |
| 11月 6日 東海新報社        | 1月 9日 東海新報社       | 3月11日 岩手日報社 | 4月10日 東海新報社 |
| 11月 7日 岩手日報社        | 1月12日 東海新報社       | 3月11日 読売新聞社 | 4月20日 岩手日報社 |
| 11月14日 河北新報社        | 3月 2日 東海新報社       | 3月11日 中日新聞社 | 4月23日 東海新報社 |
| 11月29日 岩手日報社        | 3月 6日 東海新報社       | 3月12日 河北新報社 | 5月 1日 東海新報社 |
| 12月 1日 東海新報社        | 3月 6日 河北新報社       | 3月12日 東海新報社 |             |

テレビ

- |                       |                       |                 |
|-----------------------|-----------------------|-----------------|
| 2021年 8月31日 岩手めんこいテレビ | 3月 6日 IBC岩手放送         | 4月12日 岩手めんこいテレビ |
| 11月 4日 岩手朝日テレビ        | 3月 9日 日本テレビ           | 4月24日 テレビ岩手     |
| 11月20日 テレビ岩手          | 3月11日 東京メトロポリタンテレビジョン | 5月10日 IBC岩手放送   |
| 12月 8日 住田テレビ          | 3月12日 NHK 仙台拠点放送局     |                 |
| 2022年 2月19日 東海テレビ     | 3月25日 NHK 国際放送局       |                 |

メディア掲載一覧



# 支援企業・団体及びマンスリーサポーター

## 支援企業・団体

- 株式会社アイ・ディ・ケイ
- 「新しい東北」復興・創生の星頭彰運営事務局
- アバッセたかた
- アマゾンインク
- 飯田市立飯田東中学校
- 飯田市立飯田東中学校 学友会
- 学校法人 郁文館夢学園 郁文館高等学校
- 学校法人 郁文館夢学園 郁文館中学校
- 一般財団法人 石川県市町村職員等  
ライフプラン協会
- 市川若宮道院
- 一関市立桜町中学校
- 一関市立東山小学校 令和3年度6年生
- 伊東文具店
- いぬい接骨院
- 愛媛県立今治北高等学校 家庭クラブ
- 医療法人 工藤医院
- 岩手県復興局 東日本大震災津波伝承館
- 岩手県立住田高等学校
- 岩手県立大東高等学校 模擬株式会社 DjoB
- 国立大学法人 岩手大学
- 岩手大学 三陸委員会 ここより
- 特定非営利活動法人 いわて連携復興センター
- 岩手わかすフェス実行委員会
- 有限会社 上町珈琲
- HR工房
- 株式会社 HGC
- エイブル FC小牧店 株式会社アルヴェスタ
- A.cafe
- SRI
- 株式会社 SSK
- 特定非営利活動法人 NPOサポートセンター
- エネラボ 株式会社
- 江別更生保護女性会
- 大倉山うたごえサロン
- 生活協同組合 おおさかパルコープ

- 株式会社 大淀開発
- 岡崎桜まつり太鼓フェスティバル実行委員会
- おかし工房 木村屋
- 大人のための絵本会
- 音の輪会
- お花見茶会有志一同
- オフィスイーハートブ
- オフィスふくしま
- 一般社団法人 おらが大槌夢広場
- 音楽室さくら咲 la
- かき小屋広田湾
- 菓子司 東海堂
- カフェフードバー わいわい
- Cafe Yuki Grandpa(大船渡市)
- カフェレストラン クローバー
- KAMIKIRISALON ひみつきち
- カラーパーティーウエスト事務局
- 株式会社 川徳 三陸応援イベント
- 川の駅 産直よこた
- 顔晴っ!とうほく元気プロジェクト
- 喜多方ラーメン坂内
- 浅草店、蘇我店、岩槻店、大塚店、  
金沢文庫店、歌舞伎町店、川口東口店、  
川崎東田店、木更津店、君津店、京橋店、  
小岩店、高円寺北口店、笹塚店、  
湘南寒川店、新宿西口思い出横丁店、  
新利根店、鈴鹿店、千歳鳥山店、調布店、  
戸塚店、名古屋守山店、西蒲田店、  
練馬中央店、練馬店、船橋店、水戸東店、  
武蔵小山店、大和高田店、四日市駅前店、  
四日市店、六泉寺店
- キャピタルホテル1000 株式会社
- 共愛学園こども園
- 特定非営利活動法人 教育支援協会東海
- 京都市立深草中学校
- 清瀬・久留米民主商工会
- gooddo 株式会社
- 熊谷珈琲店
- 公文教育研究会 日本語チーム

- 株式会社 グリーバル
- Crazy Japanese
- 特定非営利活動法人 KIプロジェクト
- 株式会社 KOLテクノロジーズ
- 国際基督教大学 (ICU) 大学院
- 小倉春ヶ丘バプテスト教会
- 株式会社 コメ兵
- コワーキングスペース ヤドカリ
- 株式会社 近藤音体研究所
- 坂部健康院
- 桜 花子
- 桜ライン311に勝手に繋がる大阪
- SAKE'S BAR 酒場 THE陸丸
- 株式会社 サニーサイドアップ
- 産直はまなす 陸前高田
- GICジャパン 株式会社
- 株式会社 シーズンズ
- JP労組東北地方本部
- 島崎 株式会社
- 市民生活協同組合 ならコープ
- ジャズ喫茶 h.イマジ
- ジャズ喫茶 ジョニー
- 旬味旬彩 鮎まつ田
- 少林寺拳法グループ
- 食堂カフェ仙華園 ×クレープ仙菓園
- 学校法人 白百合学園 盛岡白百合学園小学校
- 株式会社 STYZ
- スナックみそら
- 住田町教育委員会
- 住友商事 株式会社
- 成蹊大学
- 学校法人 清泉女学院
- 清泉インターナショナル学園
- 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
- 全トヨタ労働組合連合会
- 株式会社 セントラル工業
- 有限会社 ソラ
- 第23回猪股さんちのコンサート

皆さまのあたたかい支えがあり第11期も活動を継続することができました。心より感謝申し上げます。

- チーム埼玉
- 中華食堂 熊谷
- 認定特定非営利活動法人  
中部リサイクル運動市民の会
- 長南ビブリアカフェ実行委員会
- 辻ヶ花興産 株式会社
- 株式会社 テレビ岩手
- 伝馬・おたがいさま
- 宗教法人 天理教叡ノ上分教会
- 東亜建設工業 株式会社 東北支店
- 株式会社 東急百貨店
- 東京世田谷ライオンズクラブ
- 東北 株式会社
- 東北さくらライブプロジェクト
- 遠野市遠野町第15区自治会 民生防災部
- 認定特定非営利活動法人 時ノ寿の森クラブ
- 一般社団法人 トナリノ
- 豊田市立小原中学校
- トヨタモビリティパーツ 株式会社  
北東北統括支社
- とよとみ珈琲
- 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会
- トリオシステムプランズ 株式会社
- トレンドマイクロ 株式会社
- 長野県岡谷工業高等学校
- 名古屋市防災危機管理局
- 奈良・佐保川桜まつり燈火会実行委員会
- 新潟さくら倶楽部
- 株式会社 nico
- 西和賀町立沢内中学校
- 日清丸紅飼料 株式会社
- 日本特殊陶業 株式会社
- 特定非営利活動法人 日本 NPOセンター
- 特定非営利活動法人 日本全国志士協議会
- 日本ファンドレイジング協会 東北チャプター
- 日本冬桜の会
- 一般社団法人 日本老人福祉財団
- 一般財団法人 日本老人福祉財団佐倉  
(ゆうゆうの里)

- ニューサイクリング図書館
- ニュートンワークス 株式会社
- ネスレ日本 株式会社
- のうとみ整骨院 患者一同
- ノルディックウォーキングクラブ青梅
- 花と緑のまち三鷹創造協会 花壇ボランティア
- 花巻市立西南中学校
- 花巻市立南城中学校
- 株式会社 バリュースタックス
- バンドラの会
- 東通村立東通中学校
- 東日本大震災被災地復興支援  
おうえんコンサート
- ヒューマン RG
- 広眺ヶ丘サロン・三々五々
- 株式会社ファンケル
- 株式会社ファンケル美健 千葉工場
- 株式会社ファンケル美健 横浜工場
- 株式会社ファンケル美健 長野工場
- 福井県民生活協同組合
- 福井市ボランティア連絡協議会
- 福島市市民活動サポートセンター
- 株式会社 富士住建
- 株式会社 blanc lotus
- 特定非営利活動法人 古川学人
- プレーメン ホームペーカー
- ヘアサロン ディスモーニング  
pen.
- ペンション福田
- 株式会社 ほり川
- ホンダカーズ 姫路西網干店
- 社会福祉法人 松田町社会福祉協議会
- 一般社団法人 マルゴト陸前高田
- Me Project
- 株式会社 道の駅高田松原
- 株式会社 ミチノク
- みちのくコカ・コーラボトリング 株式会社
- 株式会社 みちのリトラベル東北

- 公益財団法人 三菱 UFJ環境財団
- 緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム
- 名城大学 Book-aid
- 株式会社 麺食
- 盛岡工業クラブ
- 盛岡中央ロータリークラブ
- もりつね音楽事務局
- 株式会社 薬王堂
- ヤフー 株式会社
- やぶ屋
- 有限会社 ユカデザイン
- 岩手県人会 ゆかりの会
- 雷音
- ユニリーバ・ジャパン 株式会社
- ユニリーバ・ジャパン・  
カスタマーマーケティング 株式会社
- 有限会社 吉野屋商会
- 特定非営利活動法人 ライフステーション100
- LINE 株式会社
- ラクレール 優しい時間
- 陸前高田グローバルキャンパス
- 一般社団法人 陸前高田市観光物産協会
- 陸前高田市コミュニティホール
- 陸前高田市広田地区コミュニティセンター
- 陸前高田市まちなか広場 交流施設  
「ほんまるの家」
- 陸前高田市民文化会館
- 陸前高田市役所
- 陸前高田市ユニバーサル就労支援センター
- 陸前高田市立小友小学校
- 陸前高田市立気仙小学校
- 陸前高田市立高田小学校
- 陸前高田市立広田小学校
- 陸前高田市立米崎小学校
- 陸前高田地域振興 株式会社
- 和歌山市宇田森婦人会
- 和太鼓 Do-Da
- 株式会社 ONE COMPATH

## マンスリーサポーター

- 佐々木信秋
- 栃木由香
- 矢口悦子
- 藤本大祐
- 金澤正浩
- 及川登美江
- 森川千恵
- 生源寺隆
- 鈴木正子
- 安曇野クロリン
- 小針光雄
- 土山隆宏・明代
- 笹野絹代
- 鈴木佐知子
- 岩崎政孝
- MAKIKO ASAOKA
- 原田 亮
- 山本清美
- Team29一同
- 後藤良平

- 金光結香
- 尾島奈緒子
- 原田聡子
- 齊藤宏樹
- 三谷麻紀
- 荒川夏実
- 高石祐次
- 真下行男
- 岩田達明
- 吉原隆成
- 天田 輔
- 北村規子
- 内藤宏章
- 阪上 浩
- 榎原由紀子
- 木村鉄筋工業 株式会社
- 小幡恵美
- 信昭田加
- 株式会社 麺食  
代表取締役社長 中原誠
- kazue omoto
- 浅葉正美
- 石川洋一
- 鈴木自動車 株式会社

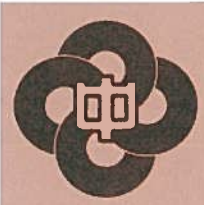
- 音楽室さくら咲 la
- 水澤千秋
- 太田 海
- 塩田哲男
- 横山 秀
- 小高英雄
- 株式会社 けいろん  
代表取締役社長 長谷部蔵之進
- 和賀彩子
- かどさか
- 小原 仁
- 竹嶋美紀

- 山神孝志
- 近藤 栄 (さくら FM)
- 岩崎亘典
- 白田佳子
- 平出 眞
- 山下文民
- 須賀信平
- 小山賢太郎
- 堀崎 薫
- 株式会社ベースホーム
- 七彩成株式会社
- 篠宮 武
- 今井洋祐
- 下郷 悟
- やっさん
- 佐々木雄太
- 板垣由美子
- 東 眞弓
- 篠原知子
- 福田美知子
- 武田美代子
- 山科威朗
- 柳澤浩子
- 中村顕子

- 福岡千代子
- 細田伸之助
- 佐藤加奈子
- (株)タイム缶詰 吉田和生
- 石黒裕次郎
- 竹松友子
- 梅原昌宏
- クシマモモヨ
- 竹内一将
- 西和賀町立沢内中学校

※ 敬称略。五十音順にて記載。  
 ※ 寄附の多寡に関わらず、協賛寄附・苗木寄附・植樹会参加・  
 お手入れ参加・企画参加していただいた企業や団体名を掲載  
 しています。  
 ※ 掲載名は振込名称及び受領書宛名、また、参加団体名をもと  
 にしています。  
 ※ 個人名は控えさせていただきます。ただし活動ネームの場合は、  
 掲載可能です。  
 ※ 対象期間は第11期(2021/7/1～2022/6/30)です。  
 ※ マンスリーサポーターの方は、掲載をご希望された方のみを  
 掲載しております。未掲載の方で、来期の掲載をご希望の方は、  
 メールにてご連絡ください。





### 花巻市立西南中学校 様

5年前、桜ライン311の活動を知り、本校でも何かできないかと考え、現地に行き草刈りや植樹作業をさせていただいたり、チャリポンを通じて桜の苗木を購入する手助けをするなど、様々な活動を行っています。時には地域の皆さんにも協力いただき、よりたくさんの方に活動を広めていこうと取り組んでいます。桜ラインがこれからもたくさんの皆さんの心を繋いでいくよう活動をしていきます。



### 長野県 塩尻市 大熊 義夫 様 ひろ子 様

形に残るボランティアに魅かれ、コロナ禍で参加できなかった2020年を除き、2012年から2人で毎年秋の植樹会に参加させていただいています。陸前高田市では、初めの頃桜を植えた個人のお宅を回り、自分たちが植えた桜の生育状況を確認させてもらうのが楽しみです。東北旅行も兼ねた年1回の植樹会への参加は今では年中行事となっています。これからも車の運転が可能ならは続けていきたいと思ひます。



### 岐阜県 郡上市 鷺見 昭 様 昌美 様

植樹会に参加させていただくようになり 11 年になります。陸前高田で植樹させていただくこと、植樹を通して知り合えた方々とお会いできることを毎回楽しみにしております。桜ラインの未来に向けたビジョンを達成するために、このような活動を続けられている事務局の皆さま方の努力には本当に頭が下がる思いです。微力ですが、これからも参加させていただけたらと思ひます。



### 株式会社ミチノク 代表取締役社長 上野 昭則 様

寄附型自動販売機と植樹会を通じてご縁をいただきました。桜ライン311様の活動を知り、岩手県に拠点をおく企業として持続できる形で関わりたいと思ったのがきっかけです。多くの人々が自らの手で植樹した桜が線（ライン）を結び、震災のシンボルとなる。未来へ続く活動をこれからも共に見守り、応援していきます。



### 東北さくらライブプロジェクト 共同代表 澤向 美希 様

コロナ禍が続きますが、2022年は小田和正さんの全国ツアーの宮城公演にて桜ライン311のみなさんと一緒にブースを設け、お客さまに向けて活動紹介を行う機会をいただきました。事務局の佐藤一男さんに連載をお願いしている小田和正さんファンクラブ会報紙の防災コラムも好評です！これからもできることを続けていきます。



### 特定非営利活動法人K1プロジェクト 理事長 鎌倉 庄司 様

震災から11年が経ち、最初の頃にお手伝いした桜も随分大きくなったのではないのでしょうか。コロナの感染拡大でしばらくお伺いできておりませんが、きれいな花を咲かせているのを見るのが楽しみです。桜ライン311の皆様には、桜の管理等で大変なご苦労と思ひますが、桜ラインの完成を楽しみにしております。



### 緑のリサイクルソーシャル エコプロジェクトチーム 顧問 湯浅 正浩 様

桜ラインの震災の記憶を後世に伝える活動は、未来の「命」をつなぐ活動として、津波からだれ一人とり残さないという願いが託されています。その活動に、私どもの「刈草」から開発した資源循環型肥料「もったいない2号」が、お役に立っていることに感謝しております。これからも、四国・徳島から活動を応援して参ります。



### ユニリーバ・ジャパン 様

「後世に伝えたい」という持続的な理念に感銘をうけ、自社サクラ関連製品の売上の一部が寄付されるという形で支援を続けております。企業として日本の未来に貢献するだけでなく、消費者の皆さまにもお買い物を通じて気軽に社会貢献していただける機会を提供できることに、大きな価値を感じています。



### トヨタモビリティパーツ株式会社 北東北統括支社長 松浦 正雄 様

「桜ライン311」との出会いは、被災地にある企業として、地域のお役に立ってないか？情報を集めている中でした。陸前高田の景色は刻々と変化していますが、経験した悲しみと失った尊い命へ鎮魂の想いは、永遠に変わることはありません。この想いを絶やさず後世に伝える為、被災地にある企業として活動を応援していきます。



### トレンドマイクロ株式会社 秘書室長 進藤 桃子 様

岡本代表の想いに感銘を受け、足繫く通わせて頂いております。自分が初めて植えた桜が鹿被害にあったため、ただ植えるだけでなく、草刈りやメンテナンスのお手伝いにも通ひ始めました。これからも一人でも多くの当社社員が活動に関われるよう、お付き合いさせて頂ければ幸いです。今後とも一緒に成長させてください！



### キャピタルホテル1000 株式会社 代表取締役社長 松田 修一 様

「災害で生まれる悲しみを2度と繰り返さない未来を創る」とのビジョンの下、今も変わらず地道な活動を続けておられる桜ライン311様には頭が下がる思いです。2011年11月に1本目の桜が植えられてからこれまで7千人超の方々の手を通じて植えられた苗は約2,000本を数え、着実に桜ラインが延伸していることに嬉しく思ひます。今後も微力ながら応援させていただきます。

## 支援者さまからの声

活動を支えてくださる皆さま



### 陸前高田市長 戸羽 太 様

桜ライン311の皆様の活動は12年目を迎え、桜の植樹や防災意識の普及啓発など、震災の記憶を後世に伝えるための活動に永年取り組んでいただいておりますことに心より感謝申し上げます。桜を通じた交流、絆が後世に末永く伝わることを祈念し、多くの皆様とともに桜ライン311の活動を応援させていただきます。



### 株式会社 ONE COMPATH 代表取締役社長 CEO 早川 礼 様

「桜ライン311プロジェクト応援マップ」の運営を通じた支援が10年を迎えました。昨年11月には「津波防災の日」に合わせ、地形が分かる「地形図」をベースとして等高線の情報を加えるなどリニューアルをしました。新しくなった地図がより多くの皆様に届くことを祈ると共に、今後も微力ながら支援させていただきます。



### 株式会社東急百貨店 常務執行役員 本社営業部門所管 石原 一也 様

桜ライン311様との取組は今年で11回目となり、植樹された桜の木々が毎年着実に増えていくことを大変嬉しく感じております。東急百貨店は、チャリティグッズの販売を通して桜ライン311様の取組を世の中に伝えるとともに、未来に向けた活動を応援させていただきます。



## 毎月定額寄附制度 マンスリーサポーター

桜ライン311では、“桜の育て親”になってくれる方を募集しています。

マンスリーサポーターは、クレジットカードを使った寄附制度です。毎月、自分で決めた金額が自動で引き落とされるシステムのため、簡単に継続的な寄附ができるようになっています。

サポーターの方には、サポーター限定の桜ライン311ニュースレター（年2回）と、活動報告書（年1回）をお届けしています。変わりゆく陸前高田のまちと、桜ライン311の活動が身近に感じられる、情報満載の内容です。

また、特典としてあなただけのオリジナル会員証を発行しています。

1日 **100円** でできること  
(3,000円/月)



桜の苗木1本(3mサイズ)を植樹し、1年間守ることができます。

1日 **200円** でできること  
(6,000円/月)



学校植樹会を1回開催することができます。  
(3本植樹の場合)

※金額は任意での設定も可能です。

お手続きはインターネットからとなります

<https://www.sakura-line311.org/supporter>

- いただいたご寄附は上記内容だけでなく、苗木育成管理などの植樹事業や、講演を含む普及・啓発事業など、団体の事業運営のために使用いたします。
- 認定NPO法人制度に伴い、マンスリーサポーターは税控除の対象となります。(最大50%の減税対象)ご寄附の領収書は、毎年1月、前年の1月から12月までの期間を対象としてまとめ、年1回発行いたします。
- マンスリーサポーターの方のみ、個人のお名前を年間の活動報告書に掲載させていただきます。(希望者のみ)
- 一般のご寄附は、口座振込等にて承っております。詳しくはHPをご覧ください。詳しくはHPをご覧ください。



山真産業株式会社花びら舎  
代表取締役 平出 眞 様

私は、本物の桜を加工した食材の会社を経営すると共に、桜を通しての社会貢献活動をしていました。311大震災に際しても、岩手・宮城・福島各地の得意先を通して、復興を願って桜の若木を寄贈植樹していました。その後、名古屋市が陸前高田市に支援をしている縁もあり岡本さんと出会い、桜ライン311の活動に共感し、ご支援を始めました。



さくらFM  
近藤 栄 様

さくらFM『防災番組いつもおそばに』の取材を通じて「私たちは、悔しいんです」その想いの深さに感銘を受けマンスリーサポーターになりました。阪神・淡路大震災で1164人が犠牲になった兵庫県西宮市の市花は桜。陸前高田の津波到達地点が、桜でライン上に結ばれていく様子を、桜の町から見守り続けていきます。

## 支援者さまからの声

地元で活動を支えてくださる皆さま  
地権者の皆さま



高田町在住 白井 照江 様

地元参加者

広田町・気仙町の津波エリアで子供達と震災11年後に初めて訪れ、隣町の津波エリアで当時の津波を想像し、避難経路を考えました。また亡くなられた方、復興に携わった方々に敬意を払いながら作業をしました。そして子供達に、市内のどこにいても「地震」「津波」「桜の木を超えて逃げろ」と伝える事は重要です。桜を通して、未来を見据えて、東日本大震災に向き合ひましょう。



竹駒町在住 上部 修一 様

地権者

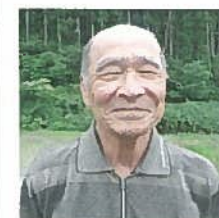
大震災から12年になりますが、震災の爪痕が見えなくなり、桜ラインが見えるようになりました。桜ラインは震災の鎮魂の証であり、希望の懸け橋だと思います。将来は市の名勝地として、又防災の先進地として全国に発信してほしいと思います。スタッフのご努力には頭が下がります。これからも健康に留意し、一丸となって初期の目的のために邁進してください。



気仙町 なかまち「絆」の会 岩淵 達夫 様

地権者

震災後、町内会は解散したのですが現在は、なかまち「絆」の会として活動しております。嵩上げ整備が終え公民館跡地に、去年念願の慰霊碑を建立する事が出来ました。津波の到達地点でもあり、慰霊碑の後ろに桜があれば、ここでお花見が出来ると。お陰様で4本植樹して頂きました。後世に引き継いで行きたいと思います。有難う御座いました。



広田町在住 佐藤 貞夫 様

地権者

桜ライン311の皆様、コロナ禍の中を震災の記憶と教訓を後世に繋ぐ活動ご苦労様です。被災者の我々も、農漁業の作業中の避難の目安にもなり、更に、桜の美しさに穏やかな日々を過ごすことができます。我々は忘れることはできませんが、過去から未来への橋渡しの一部にならなければいけません。活動に際しては微々たるお手伝いしかできませんが、今後ともよろしくお願い致します。



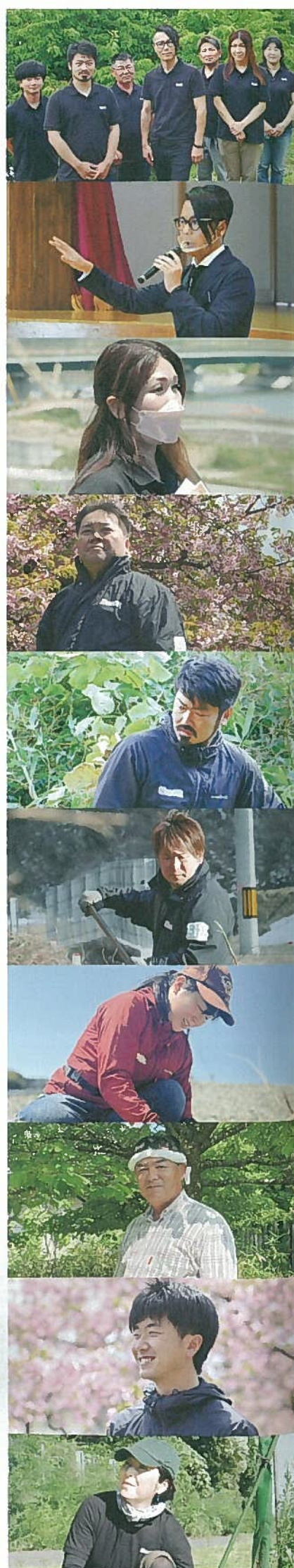
# 組織概要

2022年6月末現在

正式名称	認定特定非営利活動法人 桜ライン311
代表理事	岡本 翔馬
設立	2011年10月16日
法人格取得	2012年 5月 1日
認定NPO法人取得	2014年 5月 1日 (更新2019年5月1日)

役員	代表理事	岡本 翔馬
	副代表理事	伊勢 友紀 (事務局スタッフ兼任) 中井 勝義
理事	理事	松田 恵美子 東平 享浩 小川 光一
	監事	石井 宏明 在間 文康
	事務局長	佐々木 良麻
	事務局スタッフ	佐々木 正也 矢作 彩子 佐藤 一男 太田 海 嶋村美和

受賞歴	2012年	一般財団法人日本ファッション協会 日本クリエイション賞
	2014年	公益財団法人日本デザイン振興会 GOOD DESIGN AWARD 2014 金賞
	2015年	一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会 第1回ジャパン・レジリエンス・アワード優秀賞
	2016年	公益財団法人ソロプチミスト日本財団 社会ボランティア賞
	2017年	国土交通省手づくり郷土(ふるさと)賞 一般部門グランプリ
	2017年	公益財団法人日本さくらの会 平成29年度さくら功労賞
	2017年	「東北みらい創りサマースクール」実行委員会 第6回東北みらい賞
	2018年	株式会社毎日新聞社 第7回「地球未来賞」クボタ賞
	2018年	吉野正芳復興大臣より感謝状 授与
	2022年	令和3年度「新しい東北」復興・創生の星顕彰



# 会計報告

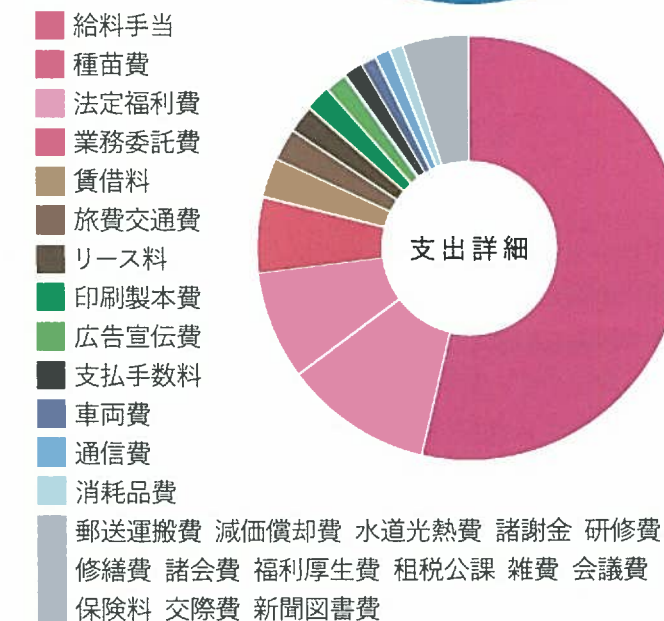
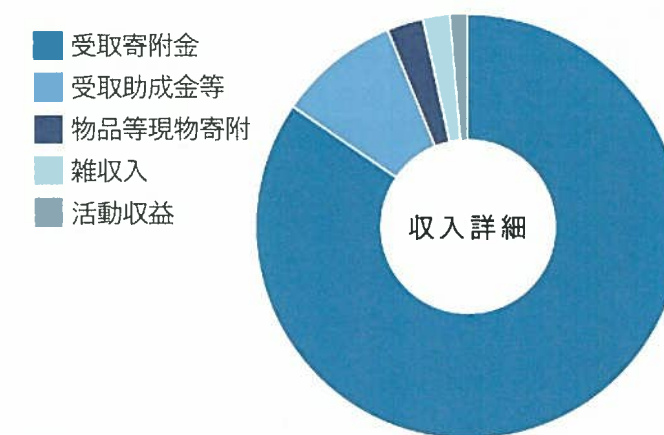
認定特定非営利活動法人桜ライン311 2021年度会計報告

【事業期間】 2021年7月1日より2022年6月30日まで

総 額	
前期現金預金等繰越額	39,524,329
当期収入総額	47,460,316
当期支出総額	40,709,581
今期現金預金等繰越額	46,275,934

支出詳細	
給料手当	21,837,134
法定福利費	3,348,139
福利厚生費	67,519
広告宣伝費	704,400
交際費	17,963
会議費	46,859
旅費交通費	1,010,116
通信費	459,491
消耗品費	448,562
修繕費	131,670
水道光熱費	319,915
新聞図書費	3,468
諸会費	123,100
支払手数料	592,589
車両費	489,315
賃借料	1,209,100
リース料	855,660
保険料	32,240
租税公課	63,000
減価償却費	331,027
雑費	51,646
諸謝金	306,000
郵送運搬費	373,055
印刷製本費	784,172
種苗費	4,572,077
研修費	151,171
業務委託費	2,380,193
合計	40,709,581

収入詳細	
受取会費	0
受取寄附金	40,169,938
物品等現物寄附	1,298,750
受取助成金等	4,406,840
活動収益	584,600
受取利息	188
雑収入※1	1,000,000
合計	47,460,316



桜ライン311活動基金※2	
前期繰越特定資産	103,034,495
受取利子	870
今期資産額	0
今期特定資産総額	103,035,365

※1 雑収入：事業復活支援金  
 ※2 桜ライン311活動基金  
 桜ライン311各事業への将来利用を目的として、理事会にて積立 / 取崩し / 管理される基金です。尚、当基金は100%事業への使用となります。  
 ※ 直近年度の詳細な事業報告等書類につきましては、桜ライン311の団体HPよりダウンロード可能となっております。ダウンロード可能な各諸表は、「認定NPO法人等の情報公開」に基づき、「活動報告書、活動計算書、貸借対照表、財産目録、注記事業別経費の状況」の5点です。ご要望いただければこちらから印刷してお送りすること、過去の決算書のご提供も可能です。その際は事務局までご連絡ください。